



発熱患者への対応で「動線分離が不可能」との不安や「感染防止対策の徹底に支援金をさらに」などの要望も出された

県
庫
保
険
医
協
会

明石支部ニユース

No.317
2020・10・15

投稿歓迎!

兵庫県保険医協会 明石支部
支部長 吉岡 嶽
神戸市中央区海岸通一丁目二番三号
TEL 078-393-1801

第37回明石支部総会開催 新型コロナ感染対策について情報交換

明石支部は、9月19日にアスピア明石8階会議室で第37回支部総会を開催した。当初は例年通り、子午線ホールでの映画上映と講演会を市民向けに検討していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止し、総会議事と新型コロナ対策の情報・意見交換を行った。今後の支部活動方針については感染拡大防止の観点を第一にニーズのある企画を検討していくことを確認した。

従事者慰労金や感染拡大防止支援金について

議論では、従事者慰労金や感染拡大防止支援金について、「慰労金の手続き後、全く音沙汰がなく1ヶ月たつ」「手書きの書類で申請したばかり」「支援金の支給対象について問い合わせしたところ、とにかく先生が感染症対策につながると思われれば申請してください」と言われ、エアコンなども可能

のようだ」「パソコンも密を避けたための予約システム導入のためとして対象になると聞いた」など意見が出された。

今後の発熱患者への受け入れと院内感染や受診抑制を防ぐには

続いて、政府の対策本部の方針や厚労省の通知、明石市の取り組みなどの資料をもとに意見交換。「ワクチンについて、医療従事者から優先的に接種するようだが、まずは国会議員や官僚からお願いしたい」「学校や保育園など先生方が大変な努力で感染が減り、手足口病なども例年より減っている」「病院では全身麻酔の術前に唾液でのPCR検査を全員に行っていける」「診療・検査医療機関の登録について、兵庫県で250カ所指定する方針だが、明石市では60カ所程度が手挙げしているとのこと」「手挙げしていないのは、発熱患者の受け入れ公表により、普段から通院されている患者さんの受診抑制や、感染リスクが増えることなどへの不安がある。賃貸のビルなどでは、入り口が一所で動線分離は不可能」「手挙げしなくても発熱患者は来る。院外の屋根のあるガレージで椅子を置いての対応や、車で来られた場合は乗つてもらつた今まで診療を行つてている」「冬の

明石支部例会のご案内

■次回の例会は
10月29日(木) 18時30分~20時
会場: アスピア明石北館8階803

(明石駅から東へ徒歩3分)

新型コロナ対応、近況、情報など交流しましょう
TEL: 078-393-1809 担当事務局 本田・平田まで

会員の先生はどなたでもご参加頂けます。
飛入歓迎!ぜひお気軽にご参加くださいませ。

外は寒いのでどう対応するか難しい。発熱の場合は電話で聞き取りして、保健所に相談することを基本にしたい」「新型コロナ疑いの

方は、1人診ても感染リスクが大きいのに、ほぼ無償で診てあたりまえとされているのが納得いかない」「スタッフへの感染を防ぐために標準予防策で対応するが、熱も出ない無症状感染者が強い感染力を持つのかが不明で不安」「自分が感染した場合はもちろん、患者が発生したときに濃厚接触者とみなされれば、直ちに診療が不可能になり、通院患者の振り分けだけでも大変になる」「ガウンやフェイスシールドを検査ごとに使い捨てるのは非現実的、リユースも考える」「100万円上限の支援金1回限りでは間尺にあわない」「協会は概算払いを求めている。昨年実績のない開業間もない先生は、事業計画書や同じ科の医療機関の平均を基準とする方法もある」など、活発に意見交換を行つた。

ラジオ関西 『寺谷一紀と!い・しょく・じゅう!』 「聴く医療 医療知ろう」のコーナーに 出演しませんか?

10月1日から3月末までが放送期間です。
先生方の専門分野から自由にテーマを決めていただき
10分程度。毎週木曜夜7時25分頃から生放送。事前
収録の形式も可能です。ご応募お待ちしています。
ご希望の先生はTel078-393-1807まで



10月1日初回放送に出演の、(左から) 西山裕康理事長、アナウンサーの寺谷一紀さん、元SKE48の犬塚あさなさん。

西山先生は、新型コロナウイルス感染症による医療機関への影響と政府による対策の必要性をリスナーに向け語りました。



「1処置1手指衛生」が原則。間接接触感染に注意をと強調。ガウンや手袋の着脱法も実演した。

明石支部は、8月29日にアスピア明石学習室で、第6回医療安全管理対策研修会「外来における院内感染対策の基礎知識」を開催し、44人が参加した。講師は、大久保病院の感染管理担当PNIPCの堀井直美副看護部長。今回は、新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止の観点で参加定員を絞って

案内、マスクや手指消毒アルコールの対策の上での開催とした。堀井さんは、新型コロナウイルス感染拡大の第2波に備え、標準予防策が大前提であること、「空気感染」「飛沫感染」「接触感染」の感染経路別予防策を加えて徹底するすることが重要とした。感染症発生時における具体的な対策と苦悩、マスクやガウンなどの正しい着脱方法、感染防護具が不足する中の対応の工夫などわかりやすく解説した。

参加者からは、「手指消毒に始まり手指消毒に終わる。まだまだできていないのがよくわかった」「患者のゾーニングが困難。消毒が大変」「発熱患者さんにエレベーターホールなどで待つて頂いているが暑い時期、寒い時期も体調が心配」
「感染者外来での実際の対

感染しない、感染させない、日常診療を続けるために

標準予防策と感染経路別予防策の徹底を

第6回医療安全管理対策研修会

感想や悩みが寄せられた。
堀井さんは最後に、「感染症指定病院として、帰国者・接触者外来に従事して半年が過ぎ、スタッフは疲労、疲弊しているが、感染の不安や恐怖を堪えて、正しい知識を常に収集共有し、冷静に、標準予防策を細部まで繰り返し徹底し、安全で質の高い医療を提供するため、医療機関全体で燃え尽きることなく気持ちを共有していくこと有必要と締めくくった。

手指衛生の選択方法

